

現状	課題	改善目標 (KPI含む) ※目標値は現状を基準としたもの
○勤務時間を除く在校時間 (単位は「1人あたりの年間平均時間」) 4 2 5 時間 5 分 (R5実績) ○年次休暇取得日数 1 4 . 2 日 (R5実績) ○県学力・学習状況調査 (R5実績) ・学力を伸ばした生徒の割合 7 3 . 2 % ・自分にはよいところがあると回答した生徒の割合 8 3 . 0 % ○教職員アンケートの実施 (R5.12調査) ・子供と向き合う時間の確保がなされている。 6 3 . 6 % ・教材研究や授業準備に必要な時間がとれている。 6 3 . 6 % ・ワーク・ライフバランスの実現が図られている。 5 0 . 0 % ・持ち帰り仕事をした日数が月 6 日未満。 5 0 . 0 % ・自分の職務について業務は適切だと感じている。 6 3 . 6 %	○勤務時間を除く在校時間が長く、仕事の持ち帰り状況も見られる。 ○授業以外の業務が多く、子供と向き合う時間の確保が十分とはいえない。 ○新学習指導要領の内容の理解が十分とはいえない。 ○個人でスキルアップさせる時間が十分とはいえない。	○在校時間の削減 (スクールサポートスタッフの必要性および効果) 勤務時間を除く在校時間を年間 3 6 0 時間以内に削減 ○子供と向き合う時間の確保、教材研究や授業準備の時間確保、 ワーク・ライフバランスの向上、持ち帰り仕事の日数減少、負担感の軽減 (教職員アンケート回答項目) 各項目 8 0 % を達成 ○県学力・学習状況調査の向上 県学力・学習状況調査の結果で、学力を伸ばした児童生徒の割合 自分にはよいところがあると回答した生徒の割合 各項目 8 0 % を達成 ○年次休暇が取りやすい環境 年次休暇平均取得日数 1 5 日を達成

業務改善方針

Goal	教員と子供が向き合う時間の確保、教員のワーク・ライフバランスの推進、 教員の負担感の軽減、チーム力向上、自己啓発の推進 ⇒ 教員の指導力向上、生徒の学力向上
------	---

Practice	②スクールサポートスタッフ・学習支援員の配置、事務職員の積極的な学校運営への関わり等による効果的・効率的な組織体制の構築 ・業務改善コーディネーターによる会議の運営、会議で提案された業務改善策の企画・推進 ・教職員を補佐するスクールサポートスタッフの配置・活用に係る効果検証 ・教職員を補佐する学習支援員の配置・活用に係る効果検証 ・事務職員、事務の共同実施による業務改善の推進	③行事、会議、教材研究等の効率化推進、不要な業務等の大胆な見直し (労働時間減、負担感減) ・会議の活用による業務改善の実践 ・教員の業務内容・時間の分析及び退庁時間設定 ・教員が職務に集中できる環境整備 ・ICTの効果的な活用による教材・指導案等の作成・共有 ・会議、分掌、集団指導、成績処理等の工夫の研究 ・前例にとらわれない教員、事務職員の職務の明確化 ・地域、保護者との適正な役割分担の研究
Base	①ワークライフバランスに対する意識の醸成 自分自身の「働き方の見直しの視点」への気づき 管理職の組織マネジメントの意識の醸成	